

## ○横田めぐみさんと韓国

高校生の時に韓国から拉致された金英男氏が横田めぐみさんの夫であるかもしれないと言い出して、日本に通報してきたのが韓国の拉北者家族の会のチェ・ソンヨン(崔成龍)代表です。日本の在韓国大使館の羽鳥一等書記官とペアを組んで、金氏の母親から DNA 鑑定に必要な証拠の採取をしました。

二年ほど前、韓国政府に対して韓国の拉致被害者の救済を訴え、被害者の家族と断食の抗議活動の最中の空ろな目をしたチェ氏に、私は初めて会いました。「韓国から拉致された 486 人のうち、4 人が脱北して韓国に帰っている。彼らを日本に連れて行くから、日本の拉致被害者と連携できる機会を作って欲しい。」これが開口一番、チェ氏の口から出た言葉です。

早速、民主党で彼らを招待する手続きをとり、国会の衆議院外務委員会(北朝鮮による拉致及び核開発問題等に関する小委員会 2004 年 3 月 2 日)で、参考人としての証言をすることまでは、実現できました。しかし、日本の拉致被害者の皆さんとは、直接の対面が果たせなかったことに悔いが残りました。「日本の被害者も、勇気を持って表に出て、北朝鮮の実情とその非道な犯罪行為を語るべきだ。」という言葉を残して彼らは帰りました。

あれから二年。この連休に訪韓して、チェ氏ら元気な NGO の支援者たちに会いました。チェ氏は、横田早紀江さんも参加したアメリカ・ワシントン DC での北朝鮮人権救済週間の催しから帰国したばかりで、多くの課題を抱えていました。特に、韓国政府は、この問題に冷たいということです。イ・ジョンソク(李鍾奭)統一省長官は、横田さんに会う必要はないと突っぱねています。二年前のように、金氏の母親とお姉さんを日本に招いて日本からアピールする手もある、と言ったのですが、彼らは「まず、日本ではなく韓国で、横田さんの両親と金のお母さんとの対面を果たすことだ。」と思いつめたように言います。

今回訪米した NGO の帰朝報告会をハンナラ党の主催でやるから、中川も特別ゲストとして招待したいという話が来りました。「来週から、日本の国会でも北朝鮮人権救済法案

の審議が始まる。これは、北の金正日に対し、韓国の皆さんとの連携を主眼にした、人権救済に対する私たちの固い意思表示です。今回、チェ氏が果たしてくれた韓国と日本との国際連携が、政治のレベルで活きるように、私たち政治家がしっかりと法律を作って頑張っていきます。」と、皆に話しました。

## ○連休明け国会は、波乱模様

連休明けの国会は、大事な話がめじろ押しです。医療法の改正案の採決が入ってきますが、高齢者医療制度の創設や、介護療養型医療施設の廃止、患者自己負担の増大などに対しては、患者の立場に立った十分な議論の煮詰まりがないままです。法務委員会の共謀罪の創設も、修正案でどれほどの改善ができたか、与党は、議論の余地なく採決を求めてきます。一連の逮捕者が出た耐震強度偽装問題ですが、コンサルタントを装う本命グループの追及やそれにかかわる政治家にたどり着くまで、国会でのもう一押しが必要です。建築基準法の改正案審議で民主追求チームの活躍を期待したいと思います。

さらに、大きな課題では、教育基本法改正案が閣議了解され、国会での出番を待っています。与党は、特別委員会を作り、今国会中に通してしまう意向です。憲法に次ぐ大事な法案を、国民的な議論もなく与党間のすり合わせだけで2週間ほどで成立させようなどという発想はどこから来るのか、理解できません。憲法ほどでなくとも、2年ぐらいいはかけて国民参加の場もしっかり作ろう、と私たちは主張しています。

連休中に、額賀防衛庁長官や、その後の外務大臣も加えた2+2日米会談で、アメリカ軍の再配置に伴う日本の負担が2兆円を超えるだろう。その内、海兵隊8千人のグアム移転には、約7千億円の日本側負担を約束してきました。負担が莫大な額に上ることも問題ですが、ミサイル防衛システムのイージス艦配備も含め、全体を通して、アメリカの世界戦略の一部に組み込まれる流れが、これで一気に加速されます。世界の情勢を見て、「アメリカ一辺倒だけで、日本は本当にいいのか？」このことを、問いなおす国会論議にしなければと思います。